



「R6 運動会」誕生物語

園長 本多 郁代

2学期が始まり約1か月が経ちました。異年齢合同保育での、さくら組（年長）ばら組（年中）ひよこ組（年少）の様子を以下に綴ってみました。（ ）内は園長の独り言です。

○ひよこ組の何人かの子どもたちが、さくら組の子どもたちに混じって3段の跳び箱に挑戦。しばらくすると先輩のかっこいい姿をまねて、ひよこ組の2人が3段の跳び箱を開脚で跳び越えた。

（お手本があると、こんなにも勇気がでるんだね。まだ小さいから無理だと思っているのは大人だけ。）

○「ぼくのおひさまパワー」の曲が流れると、どこからともなく子どもたちが集まってきて踊り始めた。

（さくら組とばら組の「イエーイ！」の大きな掛け声に引き込まれ、ひよこ組もノリノリだね。）

○遊戯室におみこしを担いだお友達が入ってきた。興味を示した子どもたちがやってきて、みんなでおみこしを担いだり「わっしょい」と声を出してうちわで仰いだり。

（楽しいと感じると、あっという間にみんなで盛り上がるができるんだね。）

○玉入れのかごが高くて、投げてにもかごに玉が入らなかった。するとばら組とひよこ組の2人が協力して細長〜いダンボール箱に玉を載せてかごの中に玉を入れようと大奮闘。

（あきらめるところか道具を使うことをすぐに思いつくなんて、さすがだね。）



遊戯室では、体を使った様々な遊びが展開されています。たくさん笑顔や笑い声、元気な掛け声があるところで聞こえます。もちろん「やったー！」「たのしい！」の声も…。こうした日常の遊びを組み合わせ、変化を加えながら、オリジナルの運動会種目が出来上がりました。子どもの「やりたい！」「おもしろい！」



という気持ちから生まれた運動会種目。子ども自身がたっぴりと遊び込んだ道具や方法を生かした種目が詰まった運動会。もちろん、職員が子どもの自発的な遊びを生み出すために工夫を重ねた結果ではありますが、小学校の教員だった私が、幼稚園に勤務して最も感動したことのひとつです。子どもたちの発想や思いがたくさん詰まった運動会ですから、当日もきっとオープニングから張り切って参加してくれることでしょう。保護者の皆様、温かい応援をよろしくお願いいたします。

